

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/11/11作成 (株)新出光

【概況】＜米国の原油在庫の見通し～中国コロナウイルス拡大による景気後退懸念＞

●4日、米労働省が4日朝方に発表した10月の雇用統計(季節調整済み)によると、失業率は3.7%と前月から0.2ポイント悪化。FRBによる金融引き締め政策が緩和されるとの観測が強まったことで米長期金利が低下し、対ユーロでドル安が進行。ドル建てで取引される原油の買いを支えました。また、今週、イラクがサウジアラビア攻撃を計画している可能性があるとの報道や、米原油在庫量の予想に反して大幅な取り崩しとなったことを背景に、エネルギー需給逼迫懸念が高まり相場は92.61ドルへ急反発しました。

●7日、7日付の米紙ウォール・ストリート・ジャーナルは、中国指導部が新型コロナ感染防止を目指す「ゼロコロナ」政策解除に向けた措置を検討していると報道。同国の景気回復に伴うエネルギー需要増加への期待が高まり、相場は一時高値を付けたが、中国国家衛生健康委員会によると、中国本土の6日の新型コロナ新規感染者数は5,496人となり、前日から1,000人以上の増加。これも厳格な感染防止策の早期解除に対する懐疑的な見方を強め、相場は91.79ドルへ下落しました。

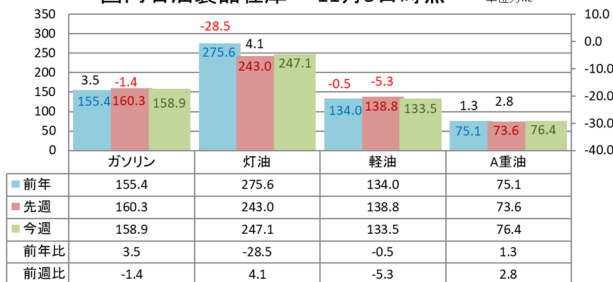
●8日、中国当局は5日の会見で、新型コロナウイルス感染拡大防止のために「ゼロコロナ政策」を継続する方針を表明しました。同国の景気への影響に懸念が強まる中、エネルギー需要減退への警戒感が広がりました。また、前週末に清算値ベースで約1カ月ぶりの高値を付けた反動から、利益確定の売りの流れが続いて相場は88.91ドルへ下落しました。

●9日、米エネルギー情報局(EIA)が9日発表した週報によると、10月31日～11月4日の米原油在庫は、前週比390万バレル増の4億4080万バレルとなり、ロイター通信の市場予想(140万バレル増)を上回りました。これを受けて、需給の先行き不安が後退し、売りを誘い相場は85.83ドルへ続落しました。

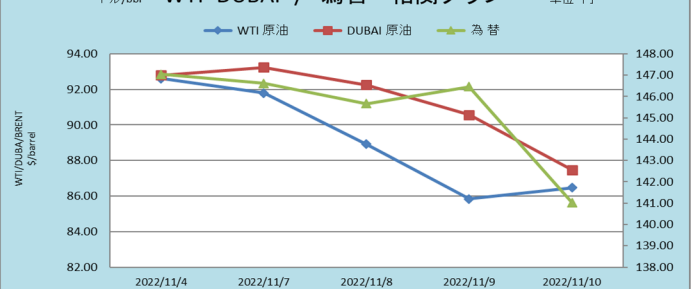
●10日、米連邦準備制度理事会が利上げペースを年内にも減速させるとの見方が台頭し、米長期金利が急低下。これを受け、ドルが主要通貨に対して下落し、ドル建てで取引される原油の割安感が高まり、前日まで3日続落していた反動もあり、買いが入り相場は86.47ドルへ反発しました。

11月11日 16:00現在 WTI原油 88.64ドル 為替 1ドル 142.87円

国内石油製品在庫 11月5日時点



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



【製品卸価格】＜17日以降の原油コストは大幅下落の見込みだが、補助金減額で相殺される見込み＞

＜今週＞今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「+1.0円」、補助金は、「-36.3円」、都合「+1.0円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの7日時点の小売価格平均は168.1円となっております。

＜11月12日以降＞次回の元売り改定は、原油コストは、「-4.0円」、激変緩和補助金は「-32.4円」の見込みで、都合「-0.1円」の値下げ改定の予測となっております。中国広州市で新型コロナウイルス感染者が増加したこと、米国EIAの週報で原油在庫が増加し需要の先行き不安が後退したこと、米長期金利が低下したことによる円高ドル安の進行により原油は、急落しています。しかし原油コストが下落する一方補助金が減額されるため仕切りはあまり変動しない見込みです。今月のコストもあらかじめ見えてきており今が市況のピークと見て、市況連動玉と月間平均玉を持つ会社は、16日までに売り切ろうと販売を強化してくると思われます。なぜなら市況が良いうちに売っておいたほうが口銭が残るのと次週の改定以降は、元売週間玉の方が競争力が強くなると思われるからです。今月も買い控えにより進捗はあまり芳しくないため月末まで玉を残した場合は、販売枠を残した業者どうしによる販売競争で市況は、日毎に厳しくなるものと予想されます。

※原油コスト「-4.0円」
 ※激変緩和補助金「-32.4円」
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】＜東芝ESS製水素燃料電池スタックを用い、従来比約2倍の長寿命燃料電池システム製品化を目指す＞

ポーランドのバッテリーシステム製造を行うImpact Clean Power Technology社、伊藤忠商事株式会社の100%子会社である伊藤忠プラント株式会社、東芝エネルギーシステムズ株式会社は、バスをはじめとするヘビーデューティー向け水素燃料電池システム開発に向けた具体的な活動に着手しました。3社は、昨年締結した覚書に基づき、東芝ESS製の耐久性・安定性に優れた固体高分子形水素燃料電池スタックを搭載したバス向け水素燃料電池システム開発の検討を行ってまいりました。このたび、東芝ESSの固体高分子形水素燃料電池スタックがImpact社へ出荷され、Impact社は最初のアプリケーションとして、バス向け水素燃料電池システムの動作検証を開始します。Impact社は、欧州におけるモビリティ、ロボット、定置用エネルギー貯蔵向けバッテリーシステムのリーディングメーカーです。東芝ESS製の高耐久水素燃料電池スタックと、Impact社のシステム設計・製造能力を合わせることで、Impact社は従来の約2倍の寿命を持つモビリティ向け水素燃料電池システムの早期製品化を目指します。また、将来的にはトラック、鉄道、船舶向けへの適応の可能性も検討していきます。伊藤忠プラントは、本技術開発のコーディネーション・物流を担うと共に、伊藤忠商事のネットワークを活用し、マーケットインの発想で水素燃料電池システム、水素燃料電池発電の新たなアプリケーションを発掘していきます。本件を通して、Impact社、伊藤忠プラント、東芝ESSは、欧州及び世界で水素バリューチェーンにおけるビジネスの拡大を目指し、脱炭素化社会の発展に貢献していきます。

【出典】

① <https://www.jiji.com/jc/article?k=000000189.000032322&g=prt>

© 2022 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.